



今回は**第10回岐阜県高等学校英語スピーチコンテスト**についてお伝えします。

スピーチコンテスト美濃地区大会

日時：平成28年10月1日（土）
場所：関高校 参加：1年生3名 2年生2名

結果： **第2位** 2年3組 古田 翔子

審査委員特別賞 1年1組 古田 真菜

審査委員特別賞 1年1組 筒井 彩恵



内容：全11名の参加者が日頃の練習の成果を十分に発揮し、多様な内容のスピーチを発表しました。本校の生徒は夏休みから練習を重ね5分程度のスピーチを堂々と披露してくれました。自分が英語を勉強するきっかけとなった話や、フェアトレード、世界の時事問題から考えたことなどを英語で伝えることができました。出場者は他校の生徒も含めてお互いにライバルでもあり、尊重し合う存在でもあることを感じることができました。本校の教員の提案で審査中には英語でのアクティビティをし、より交流を深めることができました。



審査委員と参加者11名

スピーチコンテスト岐阜県大会

本校からは地区大会で第2位だった古田翔子さんが10月22日に行われた県大会に出場しました。古田さんはLGBT(Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender)に注目をし、世界と日本との性の少数派に対する捉え方の違いやそれに対する自分の意見を堂々と発表してくれました。残念ながら入賞には至りませんでした。自分の意見を人に伝える大切さを知ることができました。

挑戦し続けることの大切さ

古田さんは昨年も美濃地区のスピーチコンテストに出場し、審査委員特別賞を受賞しています。昨年よりも今年のほうが伝えたい内容も濃く、スピーチコンテストに対する気持ちも熱いものとなっていました。2年7組の鈴木花菜さんも昨年の県大会出場者です。1年6組西部寛太君も中学生の頃からスピーチコンテストに出場しています。どの出場者にも言えることは、挑戦し続けているということです。スピーチコンテストに出場することは決して容易なことではありません。何度も原稿を練り直し、1か月以上を費やしスピーチに磨きをかけます。人前で話すことが苦手だったり、英語を話すことが苦手だったりする人もいたかもしれません。しかし、前向きに取り組み挑戦し続ける姿は素晴らしいと思いました。これからも英語のみならず多くのことに挑戦に、可能性を広げてほしいです。